



本会記事

■報告：Plasma Conference 2011

組織委員長 藤山 寛 (長崎大学)

ENJOY PLASMA! をスローガンにして、2011年11月22日～25日に金沢で開催された Plasma Conference 2011 が成功裏に幕を閉じました。会議の開催にあたり、主催、協賛、後援をいただいた学協会、ご尽力いただいた組織委員、諮問委員、プログラム委員、現地実行委員・アルバイト、現地石川県金沢コンベンションセンターのご関係各位に厚く御礼申し上げます。また、幹事学会として事務局を務めていただいたプラズマ・核融合学会事務局の皆様、盛大な展示会・広告をご担当いただきました日刊工業広告社に心より感謝申し上げます。

予想を上回る1072名のプラズマ研究者、学生が参加した Plasma Conference 2011 は、永年にわたりプラズマ基礎物理、プラズマ診断技術、放電素過程、プラズマ壁相互作用などを研究してきたプラズマ・核融合学会や日本物理学会とプラズマ応用科学を推進してきた応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会の合同会議でありました。つまり、成熟期を迎えたプラズマ関連学会が、他人(他学会)の話を聴くために合同で開催されたもので、プラズマ基礎物理とプラズマ応用科学の融合を飛躍的に促進することを目的としておりました。まさに、No Application without Fundamental Researches! No Contribution without Application! を具現化するジョイント会議でした。目標としていたプラズマ関連学会の連携、プラズマ基礎物理と応用科学の連携そして産学連携(展示会)の3つの連携は進んだのでしょうか？

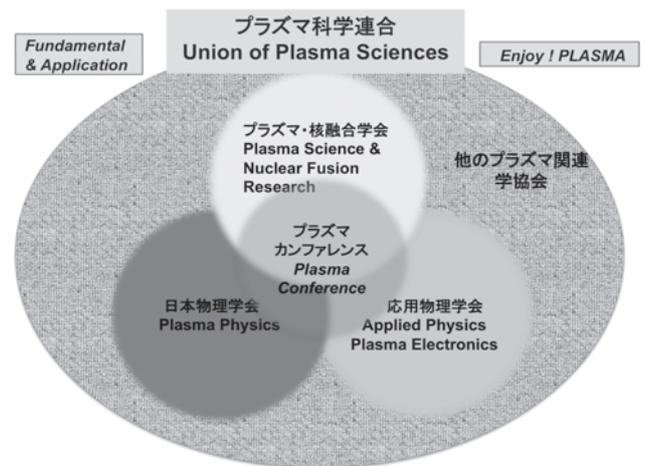
参加者アンケートでは、91%以上の参加者が有意義だったとお答えになり、この Plasma Conference の継続開催についての設問には、71.5%が今後も開催すべき、6%が開催する必要なし、21.2%がどちらでもよい、未記入1.2%と答えられました。開催周期についても毎年開催希望が29%、2年毎が38%、3年毎が24%と比較的短い周期での開催を希望しておられます。この結果は、他学会の話を聴くことが自分の研究に役立つとお考えの方が多かったことを表しており、プラズマコミュニティの明るい未来を暗示しています。実に500名を超える参加者でおおいに賑わった懇親会をみても、このことが実感できると思います。

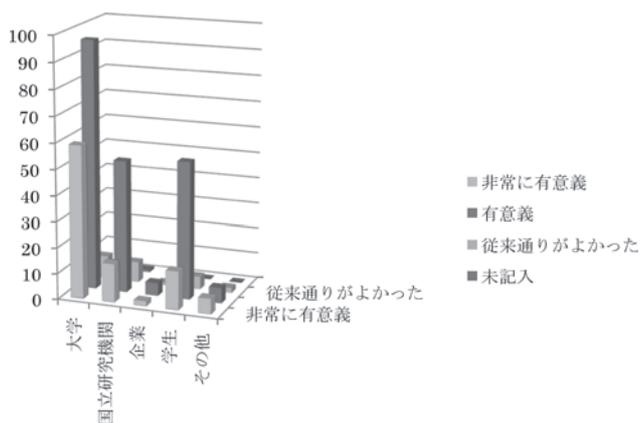
しかしながら、問題がなかったわけではありません。石

川県や金沢市からの多額の補助金をいただくために Plasma Conference を国内開催の国際会議と位置づけたこと、主催3学会の年会・研究会のそれぞれのスタイルを急激に変更することを避け、ある程度そのやり方を踏襲するため、今回は学会毎のプログラム+学会連携セッションという「緩やかな連携」にせざるを得なかったこと、予想を超える800件以上の講演件数を4日間で行うために多くの会場が必要となり、ポスターセッションのコアタイムも1.5時間に制限せざるを得なかったことなどです。これらの問題点については、アンケートでも同様の指摘を多くいただきました。今後の最重要課題として、何より学会連携セッションの比重を増すことが挙げられると思います。次回開催計画を検討するプラズマ科学連合運営委員会での英断を期待しています。

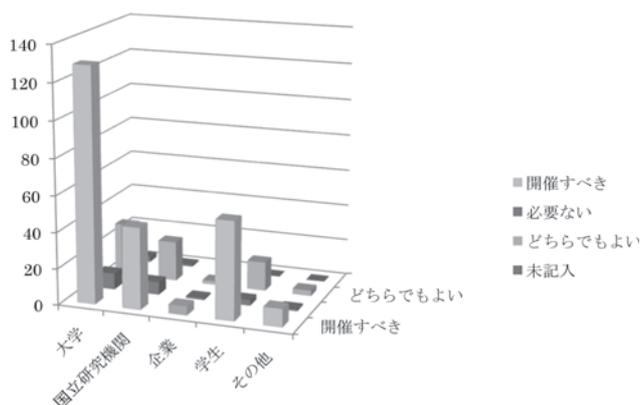
今回の Plasma Conference 2011 は、プラズマ・核融合学会、応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会、日本物理学会領域2の3学会が呼応して定例の学会・研究会を併せて開催したもので、プラズマに関係する真の統合学会が初めて実現できたものと思っています。今後他のプラズマ関連学会の積極的な参加を期待しています。多過ぎる学会を統合して一度に開催できないものか、と企画されたこの初めての学会連携事業は「学会冬の時代」に怯える多くの学協会のモデルケースとなるに違いありません。

終わりに、プラズマ科学連合、Plasma Conferenceの更なる発展を心より願っています。

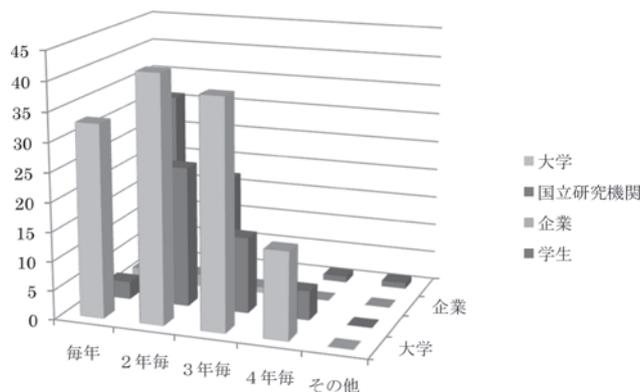




参加者アンケート設問3より、今回の Plasma Conference 2011 に出席された感想 (該当するもの一つに○)。



参加者アンケート設問4より、Plasma Conference を今後も継続して開催するかどうか (該当するもの一つに○)。



参加者アンケート設問5より、前の質問で「開催すべき」とお答えになった方に望ましい開催周期について。

Plasma Conference 2011 現地実行委員会報告
 現地実行委員長 上杉喜彦 (金沢大学)

Plasma Conference 2011 (略称: PLASMA2011) が、2011年11月22日から25日まで石川県金沢市の「石川県立音楽堂」, 「ANA クラウンプラザホテル」と「金沢市アートホール」の3会場で開催されました。これは、本学会(幹事学会)と応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会、日本物理学会領域2の合同主催で、プラズマ・核融合学会第28回年会と応用物理学会第29回プラズマプロセッシング研究会、日本物理学会領域2の2011年秋季大会と合同で開催したものです。

当初、第27回年会(札幌, 担当: 北海道大学)の次回年会を金沢大学が担当することを引き受けてまもなく、ある会合で藤山寛先生(長崎大学)、白谷正治先生(九州大学)や石原修先生(横浜国大)らから、第28回年会は過去3回開催された「プラズマ科学シンポジウム(PSS)」から発展させた新しいプラズマ科学の合同会議としたいとの相談を受けました。プラズマ・核融合学会の年会を開催するのも、今回の PLASMA2011を開催するのもどちらも大差ないと気楽にその場で引き受け、本島修前会長もその場におられたことから、プラズマ・核融合学会、応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会、日本物理学会領域2と現

地実行委員会の主要メンバーの立ち話会議が急遽行われ、今日に到った次第です。

PLASMA2011の目的やその理念は、藤山組織委員長の報告にお願いするとして、その最大の特徴は、それぞれの学会が年会や分科会、秋季大会の開催を取りやめて、PLASMA2011として合同で開催したことにあります。現地実行委員会は、組織委員会とプログラム委員会、学会事務局と協力しながら、他学協会のプラズマ関連学会・会議の参加者数を調べ、どれくらいの参加者が見込めるか、会場はどれくらいの規模のものがよいかなどの検討を行い、参加者数を楽観的予想: 800人、現実的予想: 700人として準備を始めました。通常の本学会年会では、口頭発表3会場+ポスター発表1会場という構成で行うことが多いため、石川県立音楽堂のみでの開催が可能と想定し開催案作成から着手しました。ところが、このあと、物理学会から学生の口頭発表会場をできるだけ多く準備してほしいとの要望や、組織委員会では大規模な企業展示会を行うことが決定され、大幅な会場の見直しが必要となりました。そこで、できるだけ会場費を抑えるために、ホテル会場を極力少なくして公共施設を最大限利用する方針から、今回のような県立音楽堂を主会場とした金沢駅前の3会場での分散開催となりました。多くの参加者から、会場が離れていて不便だと言う声をいただきましたが、このような経緯

で決まったことをご理解いただければ幸いです。

さて、藤山組織委員長の報告にありますように、PLASMA2011を国際会議として位置づけ、各委員会の先生を中心に国外からの参加者を一人でも多く集めるよう奔走していただいた結果、国内参加者（留学生を含む）：1025人（内、学生：422人）、国外参加者：47人の計1072人、アルバイト学生：51名を含めると1100人を超える多数の人に参加いただきました。このことは、組織委員会を始め関係者の予想を大きく上回り、事務局で準備したプログラムや予稿集CD-ROMが最終日の途中にすべてなくなり、急遽、スタッフ分を回すといったうれしい誤算もありました。これもひとえに、関係各位のご努力とそれに添えてくださった参加者の皆様に負うところが大きいと感じております。加えて、400人を超える学生の皆さんに参加していただいたことは、明るい希望の一つと感じております。

通常の年会報告にある詳細なプログラムは、会議HP (<http://www.jspf.or.jp/PLASMA2011/jpn/contents04.html>) を参照いただくこととして、本報告では各講演種目の件数のみを表1に示します。11月23日（水・祝日）に「プラズマが拓くエネルギーの未来」をテーマとして音楽堂コンサートホールで開催した公開講演会講演会では、有馬朗人先生から「日本のエネルギーの未来と核融合」の演題で、近藤道雄先生から「太陽光発電が拓く安心安全エネルギーの世界」の演題でご講演いただきました。祝日での公開講演会ということで、将来の研究を担う高校生やそのご両親の参加を期待して、県教育委員会の後援をいただき、無料ミニコンサートを講演会前に開催しましたが、余り多くの一般参加者がなかったことは今後の反省材料とするところです。わずかな救いとしては、講演会終了後に2人の女子高校生が受付にやってきて、プラズマの話聞いてもよくわからないと言うので、その場にいたものから30分以上にわたり「プラズマの基礎」の詳しい講義を受けていたのが印象的でした。

表1 PLASMA2011講演数

講演数	
基調講演	11
シンポジウム	18
International Session	34
国内招待講演	20
一般講演口頭発表	223
一般講演ポスター発表	516
公開講演	2
受賞記念講演（プラ核、物理）	7
ポストデッドライン講演	4
計	835

懇親会は、この種の会議では非常に重要なイベントの一つでもあることから、当初、参加者を200名と予想して金沢市内でも屈指の風光明媚な「しいの木迎賓館」を会場として予約しておりました。ここは、金沢城公園にあり、兼六園も近く夜は金沢城石垣のライトアップを見ながらの食事やお酒を堪能してもらおう計画でしたが、いざ、懇親会の事前予約受付を始めると300人を超える数の予約があり、最終的には参加者が400人を超えるであろうと予測され、組織委員会や現地委員会、事務局と相談して思い切って会場を変更することに決めました。結果的には、講演会場にもなっていたANAクラウンプラザの大広間で、500人を超える参加者を得て盛大な会を催すことができました。日刊工業広告社から石川の銘酒「天狗舞」の菰樽を提供していただき、また、ホテル側のご厚意で酒の持込も無料にいただいたこともあり、北陸の地酒も多く用意いたしました。皆様にもご堪能いただけたのではないかと思います。

最後に、PLASMA2011の金沢開催において、多くの助成をいただきました石川県と金沢市、またその橋渡しとしてご助力いただきました金沢コンベンション関係者に深く感謝するとともに、日刊工業広告社に感謝申し上げます。

■理事会からのお知らせ

臨時総会提出資料の学会ホームページ掲載・閲覧について

このたびプラズマ・核融合学会では、一般社団法人への移行に伴う新定款の最終合意をいただくため、臨時総会を2012（平成24）年3月15日に開催いたします。理事会では、「臨時総会に提出される議案の関係資料」を学会ホームページに掲載し、会員各位のご意見等を代議員を通じて臨時総会議事に反映できるように、事前に関覧していただくことにいたしました。

資料閲覧に際しては、下記の会員用パスワード（期間限定）をご利用ください。

「rinjisoukai12」

従来、総会提出資料は全正会員に郵送・配布しておりましたが、学会財政の節約を図る目的で、資料の郵送を代議員、評議員、役員に限定いたしております。会員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、従来どおり、資料の郵送を希望される会員は、電話・Eメール等で事務局にご請求ください。

以上